

ビーチクリーンアップ モニタリング調査 2025「浜歩き×海ごみ調査」

日 時：令和 7 年（2025 年）12 月 20 日（土）9:00～14:30

場 所：調査場所①（さぬき市鴨庄 鴨部川河口近くの海岸）

調査場所②（さぬき市小田 興津海岸）

参加者数：10 名

12 月 20 日 土曜日、さぬき市大串半島周辺 2 か所の海岸でモニタリング調査を実施し、企業で環境活動に取り組む方や市民活動をされている方、家族連れなど、計 10 名にご参加いただきました。

今回は、International Coastal Cleanup (ICC) 手法と、水辺の散乱ごみ指標評価手法を用いて、2 地点で調査と漂着ごみの回収を行いました。調査では、海ごみリーダー養成講座（11 月 1 日開催）の修了生がキャプテンを務め、講座で学んだ調査時の留意点を説明し実施しました。

1 か所目：調査場所①（さぬき市鴨庄 鴨部川河口近くの海岸）

回収・調査の結果、個数が多かったごみの品目トップ 3 は、表 1 に示すとおりです。全体として、破片系のごみが多い傾向が見られました。また、川の河口近くという立地特性から、一般的な海岸と比べて、プラスチックシートや袋の破片、食品の包装・袋類が多いことが特徴的でした。

2 か所目：調査場所②（さぬき市小田 興津海岸）

こちらでは、海ごみリーダー養成講座の修了生 2 名がキャプテンを務め、同様の手法による「調べるごみ拾い」の実施方法の説明を行いました。また、活動を通して受講生が気づいた点を参加者と共有するなど、進捗を担いました。回収されたごみの品目トップ 3 は、表 1 に示すとおりです。

海ごみのミニ講座、受講生からのコメント

調査の合間には、海ごみ問題を正しく理解してもらうための「海ごみミニ講座」を実施し、「海ごみの現状」「海ごみ問題とは何か」「問題解決のために必要なこと」などについて解説が行われました。

参加者からは、「どこでもたくさんのごみがあることに驚いた」「調査する場所によって、ごみの種類や個数が大きく異なることが分かった」などの感想が寄せられました。

今回の調査を通して、受講生の皆さんが講座で得た気づきをきっかけに、身近な場所や日常生活の中で海ごみ削減に取り組む一歩につながることを、そして今後、海ごみリーダーとしての活動がさらに広がっていくことを期待しています。

表 1 各海岸における ICC 調査結果

調査場所	ICC 調査結果（個数が多かった 3 品目） t = 15 分間	回収量
調査① さぬき市鴨庄	① プラスチックシートや袋の破片 78 個 ② 発泡スチロール破片 77 個 ③ 食品の包装・袋 42 個	3 袋（45L ごみ袋）
調査② さぬき市小田	① カキ養殖用まめ管（長さ 1.5 c m） 105 個 ② タバコの吸い殻・フィルター 26 個 ③ 発泡スチロール破片 25 個	1 袋（45L ごみ袋）

【International Coastal Cleanup(ICC)】

世界共通の方法で、回収したごみを品目ごとに分類してその個数をカウントします。どのような品目が多いのかを把握し、発生抑制対策にも役立てられています。

【水辺の散乱ゴミの指標評価手法】

海岸を見てごみの量をだまかに調べる方法です。クリーンアップを実施する前や海岸や地域におけるごみの量を把握したりするときに使われている方法です。

【活動写真】

調査場所①：さぬき市鴨庄 鴨部川河口近くの海岸



海岸クリーンアップの様子



調べるごみ拾い（ICC 調査）の様子



調査の結果を共有



海ごみミニ講座

調査場所②：さぬき市小田 興津海岸



海ごみリーダー養成講座修了生による説明



調べるごみ拾い（ICC 調査）の様子



調査結果と気づきの共有



集合写真